

平成 20 年度 JAXA 学校宇宙連詩への取り組みの報告

実施概要

学校名	町田市立 堺中学校	校長名	武内愛樹
所在地	〒194-0211 東京都町田市相原町752番地 http://www.machida-ky.ed.jp/j-sakai/		
参加者	1 学年 7 学級 243 名	指導 教諭	佐野裕之教諭 栗城アサ子教諭
参加目的	本校は、総合的な学習の中で、地域の文化や人々との関わりを通して自分の生き方について、考えを広げ深める事をねらいとしています。宇宙連詩作りをとおして、生徒が「地球人」を意識し、他者とのつながりを考え、心情を豊かにするきっかけになることを期待して参加しました。		
指導目標	<p>目標 1 : 宇宙という視点から身の回りのモノゴトや繋がりを見ること、考えるきっかけを、生徒に与える。(JAXA ヘレクチャへの協力を要請)</p> <p>目標 2 : 宇宙連詩に向けての詩の書き方を学ぶ機会を、生徒に提供する。(JAXA ヘレクチャへの協力を要請)</p> <p>目標 3 : 生徒の学級での協働活動として、宇宙連詩の編纂を促進する。</p>		
具体的な取り組み内容			
実施段階 実施時期	取組内容		
準備段階 9 月 ~	JAXA 職員と本校関係者との連絡相談をし、参加学年の決定、指導計画の作成と準備を、本校指導教諭が、JAXA の協力を得て (職員、詩人) 進めた。		
導入段階 11 月	<p>指導目標 1・2 への取り組み</p> <p>JAXA 協力 (JAXA 職員・詩人の講師としての派遣) のもと、宇宙について及び宇宙連詩レクチャを実施。(1 コマ (50 分))</p> <p>宇宙連詩作りへの準備 : 私たちはどこから来たのか? 何なのか? どこへ向かうのか? の問いに答える活動としての JAXA 等が進める宇宙活動の紹介。</p> <p>宇宙連詩レクチャ : 生徒に、詩作りの心構え (何について書いても詩にできる等) 連詩作りの心構え (言葉を繋ぐゲームとして捉える等) を持たせることをねらいに、講師の詩人から、具体例を紹介 (作品の朗読等) する形で、レクチャ頂いた。</p> <p>質疑応答、感想の集約</p>		

<p>実施段階</p> <p>11 月 ~ 3 月</p>	<p>指導目標 3 への取り組み</p> <p>生徒が意欲的に詩づくりに取り組むことをねらいに、学級を 6 チームに分け、第 4 詩目以降を、各チームがリレーで繋いでいく形式を試行した。</p> <p>「よいとこどり」をねらいに、国語授業の導入で、各自が作成した詩を発表し、表現方法の良いところを確認し、クラス全員で次の詩を選出した。</p> <p>町田市制 50 周年記念事業で行われた“屋根のない博物館「玉のよこやま」アート&ウォークイベントとして、仮設プラネタリウムの中で作成途中の宇宙連詩を朗読発表した。</p>
<p style="text-align: center;">社会との繋がり</p> <p style="text-align: center;">メディアの報道、研究会での成果発表等、 本取組が社会に広まる実績や計画があれば、ご紹介ください。</p>	
<p>宇宙レクチャ、宇宙連詩レクチャでは、地元メディア（新聞、テレビ）が取材し、レクチャの様子が報道された。</p>	

平成 20 年度 JAXA 学校宇宙連詩への取り組みの報告
指導教諭からの報告

宇宙連詩を作って

町田市立堺中学校 1 学年指導教諭 栗城アサ子

設定された指導目標に対する到達度

生徒達は国語読んだ教材文の中で、JAXA の名称に親しみを覚えた者も多くいたが、生活の中で宇宙について考えることや、普段から詩に触れる機会があまりない状況であった。レクチャ授業の中で、我々の存在も宇宙の中で 1 つに繋がっていること、一見無関係に見える物事も出来事も全て宇宙の中でのことであることを伺って関心を持ったようだった。また、詩人の覚さんの言葉（宇宙にこだわらずに作って良いこと、前の言葉やイメージにとらわれず自由にジャンプしたもので良いこと）に励まされ、自由に発想した詩を作る楽しさを学ぶことができた。

更に詩を互いに鑑賞しあうことでクラスメイトの意外な一面に気づき、前の詩から自分の詩を繋げて作る事で人とのつながりも考えることができた。

教育ツールとしての宇宙連詩が持つ可能性

自由な発想、言葉遊びの感覚で詩を学ぶことができるので、普通の授業では意欲的でなかった生徒も、伸び伸びと参加することができる。また、一つの言葉のイメージを広げ、深めて考える事ができ、さらに 3 行詩・5 行詩という短い形式であることから詩を創作することに積極的に取り組む事ができる。

今後の期待・アドバイス

直接 JAXA の職員の方や詩人の方にレクチャ授業をして頂ける機会は、生徒だけでなく指導する教員にとっても貴重であり、かつ有意義な時間であるので是非続けていきたいと思う。また本校での取り組みは、職員への周知徹底が不十分であったため、クラスでの継続した指導が徹底できなかった。失敗やこんな有効な方法があるなどの実践例を示して頂けると、これから宇宙連詩に取り組まれようとしている学校さんが参考資料として利用できるのではないかと思う。

平成 20 年度 JAXA 学校宇宙連詩への取り組みの報告
参加者からの報告

感想 1 (1 学年参加生徒)

最初は、詩の創作なんて自分にできるかなと思ったけど、覚さんの話や詩の紹介を聞いて、こんな気軽に作っていいんだと思った。ちょっとウケをねらって作ったものもあったけど、みんなの詩を読むことができておもしろかった。

感想 2 (1 学年参加生徒)

面白かったし、自分がこんなに気軽に詩を書けるなんて思わなかった。3行詩より5行詩の方が自分の言いたいことを書くことができた。

感想 3 (1 学年参加生徒)

宇宙の写真がきれいだったので、最初の授業はおもしろかった。JAXAのことをもっと詳しく知りたいと思った。プラネタリウムの中で読んだ詩もよかった。

感想 4 (1 学年参加生徒)

他のクラスの詩を読んで、1つの詩から全然別のものになっていくのが面白いと思った。自分のクラスがこれをやる前よりも好きになった。

感想 5 (1 学年参加生徒)

1つの詩からいろんな事を考える事が出来る詩人の覚さんはすごいと思った。みんな第3詩を書いて選ぶ時が一番おもしろかった。男子が意外といい詩を書いているのにびっくりした。

感想 6 (1 学年参加生徒の保護者)

プラネタリウムでの発表会では、美しい星空と音楽、そして子ども達が読み上げた宇宙連詩がぴったりと合っていてとても良かったと思います。仮説プラネタリウムということだったので、多少の狭さはありませんでしたが、家族で参加できて楽しいひとときを過ごす事が出来ました。普段の授業参観とは違った雰囲気だったので、こんな発表会をこれからも機会があればやって欲しいと思います。